

湯治のお客さまへ

泉質

湯治入浴の仕方

良くある質問

症状例

湯治を迷っている方へ

宿泊、料金

交通



筍沢温泉

で湯治するのは、
他で湯治するのとは、意味が全く違うのです

まれに、医者、または接骨医の方に、湯治を止められたとおっしゃる方がいます。それは、当温泉を理解していないか、長く引き止める手段のためです。医者に内緒で来た人は、必ず、もっと早く来れば良かった、悔しいとおっしゃいます。湯治を止める医師もいますが、それ以上「筍沢温泉だったら」と進めて下さる医師は比較にならない程大勢いらっしゃいます。なかには、なぜ、こんなに治るのか、と、自分で確かめる為に、お泊りに来る医師の方もいらっしゃいます。

ご自分の辛さは、自分しかわかりません。

夫、妻、または、親、兄弟でもいざとなると分からないのです。ご家族の為に働いて痛くなったとしても、同情してもらえるのは、最初だけです。『痛い、辛い』と始終言いながら、働いてもだんだんうるさく思われます。小言は、誰も聞きたくないのです。明るく人生を過ごすほうが回りの人たちにも喜ばれます。

よく、どう仕様も無くなって”わらをもつかむ気持ちで来た”と言われると、複雑な気持ちになります。余り、重くなりますと、治りも遅くなるのです。やはり、どう仕様もなくなる前にお越しになって欲しいのです。(粗大ゴミになる前に筍沢に行けと言う医師もいらっしゃいます)

痛い、辛い、という時が、治し時です。

正座できない人が、気づかないうちに正座していて、他の人に言われて、良くなった事に始めて気づいた、当温泉は、そんな風に治ります。

ムチウチの人は、怠け癖がついてとか、神経痛の人は、ただ痛い、痛いと言ってとか、また、痔の人はたいしたことないのにと言われた。そして、そんなに、いつまでも、痛いはずなのに、と言われた話をよく聞きます。

その人の辛さは、同じ病気になった人しか分かりません。どうか、その辛さを理解して上げて下さい。そして、湯治について理解してください。

家族の方(嫁、婿さんであっても)の幸せは、自分の幸せ、そして、明るい家庭は、自分のためでもあるのです。

”筍沢温泉”で湯治するのは、他で湯治するのとは、意味が全く違うのです。

このページのPDFファイルはこちら

